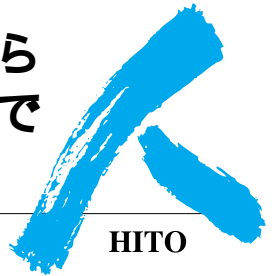




忙しい時のほうが楽しいから ボランティアを意識しないで 動き回っています

北牧千鶴子さん (ボランティア連絡会代表)



HITO

北牧さんがボランティアを始めたのは、中央公民館のボランティア講座のお知らせを見て、「自宅で自分の作れる時間でできるから。」と考えて点字の部に申し込んだのがきっかけです。以来、活動を続け、昭和55年に虹の会を設立してからは、視覚障害者の要望に応じて点訳したり、図書館の点訳書の作成に協力したり、初心者への点訳指導などを主な活動内容としてきました。

「長くやってきた結果でこれも順番と考え、今はボランティア連絡会の代表をさせていただいています。先輩の後を引き継いでの3代めだからつぶさないようにしっかりとしないと。」とおっしゃいます。ボランティアという言葉が市民権を得、さまざまに個人や団体が活動していますが、「人は一人では生きていけない。だ

趣味でコーラスと料理の会に所属して活動していますが、その経験が、ハンディコーラスで役立っています。趣味として活動していても、どこかでボランティアと結びついているんですね…。

から支えあつていかないと。そのバランス取りが連絡会の役割と考えています。」と会の必要性を話してくださいました。また、「パソコンで点訳ができるようになり随分案になったけれど、長年やっていても点字は打てるだけで、触れただけで読むのはむずかしい。だから中途失明者へは本当に大変だと思ふ。」と障害者への思いやりが伝わってきます。そして地道な活動が認められ、虹の会は先達グループに続き平成2年にシラコハト賞を受賞されました。

北牧さんの活動は障害者ボランティアにとどまりません。狭山警察少年非行ボランティア連絡協議会の会長として狭山市と人間市の指導委員や警察署員と一緒に、毎月街頭指導なども行っています。「恐い目にも合つが、子どもの年齢まで気持ちを下げて話してみると、分かつてもらえることも多く、おもしろい話も聞ける。」と笑顔でおっしゃいます。

多くの活動を通して、1日を人の何倍も動き回っている北牧さんですが、共通するのはボランティアの心。「自分では、自分がボランティア活動をしていると思つているうちはボランティアではない。」と思ひ、「生活の一部になつてしまつのが理想。」と考えているそうです。「主人の、「たまには家のボランティアをしなければ」という理解ある言葉にも支えられ、北牧さんのエネルギーが日々は続きます。

狭山の生態系

70

ハジロカイツブリ

(カイツブリ目カイツブリ科)

全長28〜34cm。冬羽は上面が濃褐色で、頬・下面および次列風切が白く、嘴は黒くやや上に反つています。夏羽では上面・頭・頸が黒く、下面は白色、脇が褐色で、目の後方に扇色の赤褐色の飾羽が生じて美しくなります。日本には北半球のものが全国の海岸、河口、湖沼などに冬鳥として渡来します。カイツブリと同じように、潜水して小魚を採餌しています。市内では人間川の田島屋堰、笹井ダムなどの水深のあるところで観察されたことがありますが、少ないようです。



撮影：県生態系保護協会狭山支部
矢内昭夫さん(水野)

生涯勉強...新しい知識と いきがいくを目指して 熟年学生さんはがんばっています

REPORTER'S EYE



生徒さんは皆さんとも真面目に取り組んでいらっしゃいます。パソコン学科の生徒さんは、家でも購入して練習を続け、最初はなじめなかった英語の表示にも、今では戸惑いを感じないで操作できるようになられたそうです。



【リポーター】

鳴海恵子さん(狭山台在住)
リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

「おはようございます」元気な声が教室に響き渡り、授業が始まるとお孫さんほども年の離れている先生に一言に集中される姿は、師と生徒という当たり前の関係を思い起こさせます。昨年の10月から始まった、狭山市シニア・コミュニティ・カレッジでは、現在140名の熟年学生さんが、新しい知識の習得に励んでいらっしゃいます。今回は、狭山市に誕生した新しいスタイルのカレッジを芹沢高齢者福祉課長にお話を伺いながら紹介します。

「おはようございます」元気な声が教室に響き渡り、授業が始まるとお孫さんほども年の離れている先生に一言に集中される姿は、師と生徒という当たり前の関係を思い起こさせます。昨年の10月から始まった、狭山市シニア・コミュニティ・カレッジでは、現在140名の熟年学生さんが、新しい知識の習得に励んでいらっしゃいます。今回は、狭山市に誕生した新しいスタイルのカレッジを芹沢高齢者福祉課長にお話を伺いながら紹介します。



授業態度は皆さん積極的で真剣です。

「おはようございます」元気な声が教室に響き渡り、授業が始まるとお孫さんほども年の離れている先生に一言に集中される姿は、師と生徒という当たり前の関係を思い起こさせます。昨年の10月から始まった、狭山市シニア・コミュニティ・カレッジでは、現在140名の熟年学生さんが、新しい知識の習得に励んでいらっしゃいます。今回は、狭山市に誕生した新しいスタイルのカレッジを芹沢高齢者福祉課長にお話を伺いながら紹介します。

問い合わせ高齢者福祉課へ内線1571